

大気計測機器等の収容局舎を木造で

大型パネルで効率化

環境計測

環境計測（京都市、品川武志社長）は、木造による機器収容局舎「KIBICLE」を開発し、成田国際空港から2局を受注した。

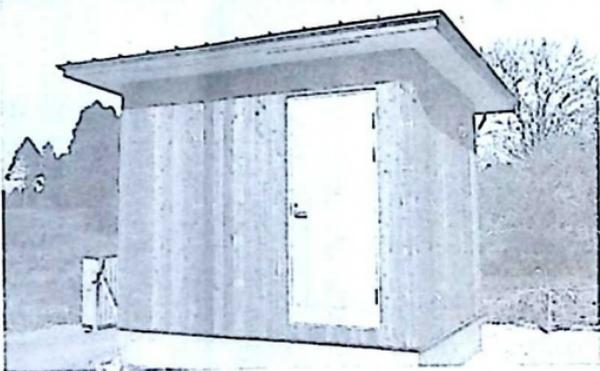
同社は大気観測局なし、観測用の機器収容局舎を木造化することと公害測定機器サービスの専門会社として1971年に創業。大気や水質、排ガスなどの測定や測定機器のメンテナンスなどを手掛けてきた。約3年前に新規事業の開発に際して「カーボンニュートラ

ル、ウッドチェンジ」つながる事業を検討

し、観測用の機器収容局舎を木造化すること考えた」という。事業化に当たりウッドステーションの大型パネルを活用して機器収容局舎を商品化した。

環境測定機器を収容する局舎は昭和40年代に各地で1500カ所程度が建てられており、更新時期を迎えて

いる。主に地方自治体が発注主となるため地域の木材を使用。アルミサンドパネル製と比べて製造時のCO₂排出量を抑え、幅3×長さ4×高さ2・6材のタイプで16・6㎡のCO₂を固定する。同社は、使用時のCO₂排出量、電気代も47%削減できると試算しており、環境性能をアピールして受注につなげようとしている。



成田国際空港から受注した観測機器収容局舎

を収納する必要があるため、機器や観測項目などにより仕様が異なる。

大型パネル生産パートナーのパネル工場から出荷することで全国対応が可能で、成田国際空港会社の案件はモックのパネル工場で作した。

ウッドステーションの大型パネルで壁4面と屋根を形成し、基礎打設、土台設置後、数時間で上棟できる。

KIBICLEは、内壁にMOTT、構造材は杉構造用集成材などをホウ酸処理し、外壁材は杉板を使い、経年劣化した場合には簡単に交換できるようにした。壁にはネオマフォーム、床はスタイロフォームATで断熱性能も高めている。

規格がなく、測定機器